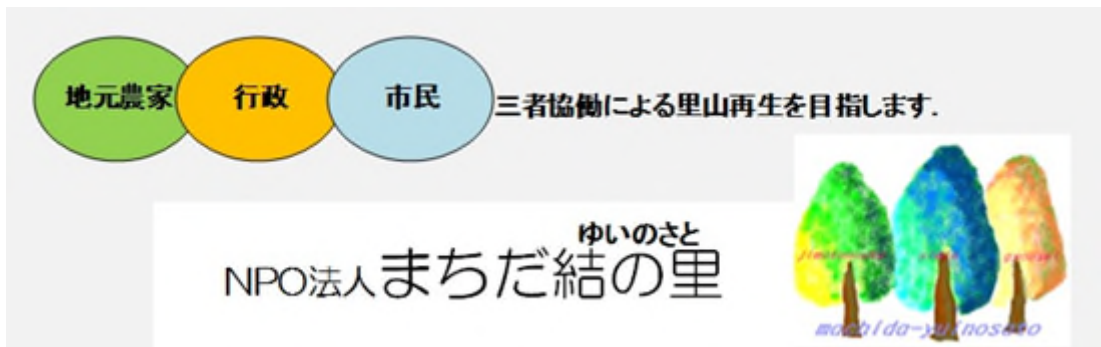


ならばい・たより



6月からの活動を時系列で記載していきます。

1) 6月30(土) 小麦の脱穀

朝から30℃ををを超える暑さであり各人でこまめに水分補給を行う。

小麦の脱穀、脱穀機を炭焼き小屋よりイヌザクラ広場に運び設営、はざかけに干してあった小麦を脱穀。

古代米の田植え クラブハウスで育てた苗をトキ谷戸の田んぼに植える。

田んぼの草取り(東谷戸) 草取り班は東谷戸に移動、上の田んぼから順次草取りを行う。



2) 7月5(土) 田んぼの草取り(東谷戸)

上から3枚目の田んぼをはじめに前回草取りをした1~2枚目の田んぼも含め水が比較的ある田んぼの草取りを集中的に行う、田んぼの周辺・畔の草刈り・片づけ(東谷戸)

活動日外に新井さん・鈴木さんに刈っていただいた草の片づけを中心に、新たに刈った草を集める。

サツマイモの苗とり、温床よりサツマイモの苗を切出す



「アドベリー」通常名「ポイセンベリー」というキイチゴ

谷合さんの家の前です。結構面白いフルーツを育てているんですね。

3) 7月7(土) 田んぼの草取り

田んぼの草取り、除草機の効果を検証するため、田の草取りを除草機のみで行う田んぼと手のみで草取りを行う田んぼを決める。

木曜・金曜の雨で水も入りひび割れの入った田んぼは修復を兼ね草取りを行う。

畔の草刈り・片づけ、畔の草を刈り、刈り取った草は堆肥舎に運ぶ。

不織布の片づけ、倉庫に入れてあった不織布を整理し片づける。

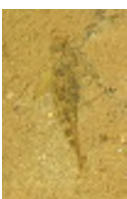
苗床に残っている苗の処理、苗床に残っていた苗を刈り払い機で処理をする。



タイコウチ

4) 7月11(水) 中央通路の草刈り

中央通路の草刈り(糸川さんの田んぼの脇から炭焼き小屋の先の三叉路まで)通路及びその両脇の下草を刈り、一部は運搬車で集める。田んぼの草取り、草取りの終わっていない田んぼの草取りを行う(除草機は使わず)、田んぼの水回りの調整、水路・ため池等を含め水の調整を行う



ヨシノボリの仲間



5) 7月14(土) 田んぼの草取り(東谷戸)

田んぼの草取り(東谷戸)、富士見台の斜面を横切る通路から北通路のベンチ周辺までと富士見台からの通路と北通路が交わる場所から鉄塔下周辺までの草刈り・片づけ、富士見台周辺の通路の刈り取った草は運搬車で集める。

人参の種蒔、ネムノキ広場の続きの畑を耕作し種をまく。

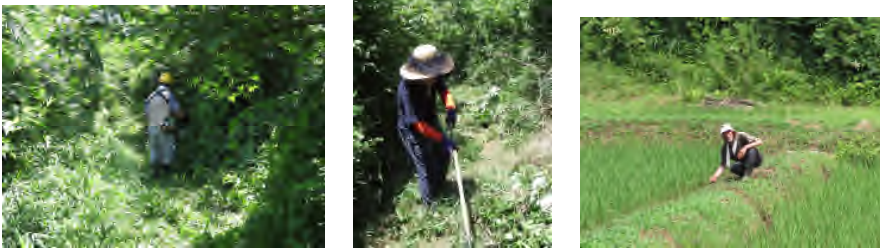


写真 福原



写真 荒井



写真 菊池



6) 7月18(水) 北通路の草刈り、「カラムシ」の繊維化の講習

14日に刈り残した北通路の草刈り・片づけ、及び前回刈ったままになっている草の整理 ⇒ 北通路の草刈り・整理はほぼ終了。

東京都埋蔵文化センター講習会 センターの職員2名を講師に「カラムシ」の繊維化の講習(クラブハウス) 野菜の手入れ、サツマイモ畑の草取り ⇒ 次回作業日に継続作業が必要



カラムシの繊維

7) 7月21(土) 田の草取り・草刈り

北通路の草刈り下側より3枚上の田んぼの草取り開始、精舎児童の生徒は専用田んぼで新井が説明



8) 7月25(水) 草刈り

炭焼き小屋周辺、栗林下の斜面、サツマイモ畑の草刈り&整理、人参の種蒔、大豆畑周りのネット張り、花暦調査、田んぼの水回りの調整



写真 福原

9) 7月28(土)

9名の方々が参加されましたが本日台風接近予報が出ていましたので活動中止としました。

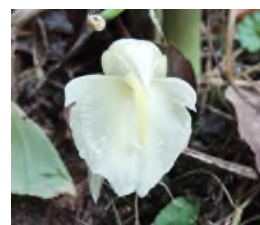


写真 菊池

大雨を危惧していましたが、幸い作業中は小雨程度で、気温もさがり、まずまずの草取りでした。今年初めてツバメ見ました。

10) 8月1(水) 草取り

サツマイモ畑、落花生畑、イモ畑、トイレ横の通路の草取り。

田んぼ・周辺のチェックと修復、植物保全(保全植物周辺の草刈り等)、イベントスタジオ展示等について報告



写真 福原

1 1) 8月4(水) 草取り

サツマイモ畑、落花生畑、田んぼ、ネムノキ広場、トイレ横の通路の草刈り、刈払機の講習



落花生の花



ととき (ツリガネニンジン)



ゴマの花、写真 福原



タコノアシ 写真 菊池

1 2) 8月8(水) 雨 作業なし

環境自然共生課より声がかかっている(他の団体)とのことで、「エコフェスタ」(9月30日開催予定)、「町田生き物共生フォーラム」の内容等につき説明あり、意見交換をする。出展については引き続き検討する。

先般、里山交流会館で開催された「小野路街づくりの会」主催の会議の内容等につき説明あり、意見交換をする。本件についても、参加等どの様に関わるかについて引き続き検討する。

東谷戸の田んぼの来年度の耕作の有無につき意見を交換する。会員の意見の集約を図り早めに結論を出すべきではとの声が多かった。

本日のメイン議題の会計の検証については、午前中は現状の資料の再検証をクラブハウスのPCで取り敢えず行うことになったため、数字の読み合わせ等のチェックは上記再検証が終わる午後の作業に延期。決算書の照合の仕事をしましたが未だに完成できませんでした。

1 3) 8月11(土) 草刈り 他

炭焼き小屋周辺の草刈り(含むキイウイの木周辺まで) ⇒ 未完成 継続作業(刈り取った草及び以前に刈った草(一部)は集め集積場に運ぶ)

栗林下の斜面の草刈り ⇒ 未完成につき継続作業

富士見台のベンチ下の斜面の草刈り ⇒ 未完成につき継続作業

谷合さんの栗林上の斜面を横切る通路の草刈り ⇒ 作業終了

水路周辺の草刈り、田んぼの水管理

追加作業

ネムノキ広場の以前刈った草を集め堆肥舎に運ぶ、栗林下の斜面の保護植物の周辺の草を手刈り



写真 福原

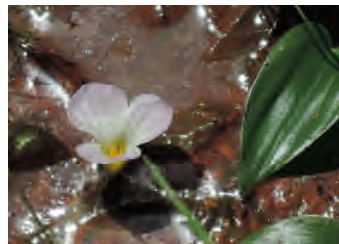


写真 中尾博

14) 8月15(水) 盆休み



ミズオオバコの花



シロヒトリ

写真 菊池

15) 8月18(土) 草刈り

畔、水路周辺、ネムノキ広場周辺及び周辺の中央通路、中央通路⇒炭焼き小屋の奥、小屋の周辺、イヌザクラ広場の上の草刈り、刈り取った草の整理も併せ行う。

人参畑の手入れ、大豆畑の手入れ、そば畑の準備

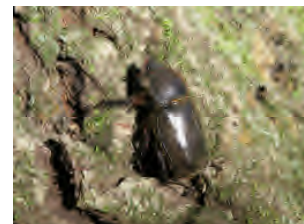
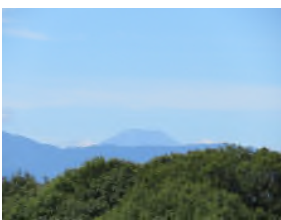


写真 福原

16) 8月22(水) ソバの種まき、横浜市の谷戸田を守る会

ソバの種まき、畝幅約80CMをとりソバの種をまく (約20MX15.5畝)

大豆畑の草取り、併せて土寄せを行う (作業途中で終了)

イヌザクラ広場及び周辺の刈り取った草の整理、中央通路の草刈り (イヌザクラ広場の上)



交流風景 写真 福原

新治の方々を迎えての打ち合わせからのメモ

討議参加者： 新治谷戸田を守る会、新治里山「わ」を広げる会、横浜市役所、農村都市計画研究所、町田市役所、まちだ結の里

当日まちだ結の里の説明資料と新治関係のパンフを配布。

新治市民の森愛護会： 園路のごみ拾い、草刈りなどの活動

新治里山「わ」を広げる会、新治谷戸田を守る会： どちらも NPO 法人

- ・面積 36a、12 枚 (7 枚かも、用再確認) の田んぼでうるち、モチ、古代米を栽培していた。1 トン (玄米) の米を販売していた。30 万円弱の売り上げが活動資金の源。

- ・年会費は 1 千円。約 70 名の会員 (うち約 10 名が子供会員)

田んぼは私有地を借りて耕作請負のような形態 (地主、横浜市、新治里山「わ」を広げる会の協定による) で行なっていた。今年 3 月に横浜市が土地を買い取り、それに伴い 3 枚だけの耕作に縮小した。手間はかからなくなったが、会員のモチベーションも下がってしまった。残りの田んぼは休耕田となっているが草刈り、耕運は継続している。今後の耕作は未定。

- ・会員の高齢化、退会者の増加、新規入会者の獲得の困難さが深刻。以前は年間 20 名の退会者があっても同数の入会者がいた。

- ・町田市と結の里で募集している里山体験者に興味を持たれた模様。インターンのような制度として認識された模様。(新治のパンフによると新規会員にはスキルアップ研修 (10 回程度/年) が用意されている。)

- ・秋に市民を交えての収穫祭を行なっていたが、おもてなしの努力が負担になり、会員が楽しめない状況があった。現在は会員だけの収穫祭に加え、公園管理者などが主催する別の秋祭りに協賛の形で参加している。

- ・米作りに特化した組織なので、冬は閑散期となる。その時期を利用して片付けや総会などを開いている。野菜作りや山仕事もある結の里とは大いに違うが、そのように普段と違う事を行うのも一つのアイデアと思った。

- ・田んぼの水当番は班と担当を決めて毎日見回りをしている。絞り水しかなく、水量も少ない。現在でもひび割れを起こしている田んぼもあるので、水管理は重要課題との事。

- ・水路に土砂が溜まるので浚渫を含めた管理にも人手を割いている。

- ・谷戸にトイレが無いので、特に女子、子供に不評。奈良ばい入口のバイオトイレは利用した人から高評価を頂きました。



17) 8月25(土) 総会

暑い中結の里の総会にご出席いただきまして有難う御座いました、一部再検討・継続の案件もありました(決算書、予算書が継続及び再検討) 又役員の改選等は皆様方の賛同をいまして無事終了いたしました2018年度はこの人事で頑張ってゆきます。

新しい人事の一覧表は出来次第公表してゆきます。

18) 8月29(水) 第一梅林の草刈り

第一梅林、見晴らし台下の斜面、栗林周辺の草刈り、イヌザクラ広場及び周辺の刈り取った草を堆肥舎に運ぶ、人参畑の草取り、落花生畑の周囲に獣害除けのネットの設置
花暦調査、田んぼ及び水路のチェック・整備



ショウジョウトンボ



落花生畑の草取り



マキエハギ

19) 9月1(土) サトイモ畑の草取り

サトイモ畑の草取り、東谷戸の畔を含む田んぼ周辺の草刈り、セイタカアワダチソウの駆除、イヌザクラ奥の倒木の整理、クラブハウスの現金出納の管理についての打合せ



枝を切り落とし周辺の整理をした。

20) 9月5(水) 第三梅林の草刈り

第三梅林、中央通路下の法面の草刈り (炭焼き小屋下～第三梅林周辺)

トウガラシの手入れ、トマトの撤去 (一部は残す)、大根の種まき、通路の巡視 (台風の影響の調査)



台風で巣が壊されたか？



ジャコウアゲハの蛹

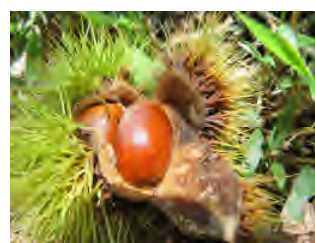


写真 福原

21) 9月8(土) サツマイモのつる返し、他

サツマイモのつる返し、中央通路ネムノキ広場～切通、中央通路第三梅林～炭焼き小屋下のり面の刈り取った草の整理、東谷戸の田んぼ及び周辺、イヌザクラ広場及び周辺の刈り取った草の整理、人参畑の手入れ、中央通路 (第三梅林～炭焼き小屋) 下のり面の草刈り、ソバの土寄せ、田んぼ横の水路の山側斜面、イヌザクラ広場の入り口の通路、イヌザクラ広場からほだ場への通路及び周辺の草刈りおよび

落花生畑の草取りと沢山のお仕事でした。



キクモ東谷戸で見れます。



ジャコウアゲハの蛹



キアシナガバチ巣が壊れたか？

22) 9月12(水) 第三梅林の剪定他

第三梅林の剪定、中央通路下ののり面の草刈り（炭焼き小屋下周辺）、刈取り済の草の片づけ・処分
落花生周辺のネット張り、ソバの土寄せ、水路周辺の草刈り、田んぼの水抜き、花暦調査



23) カラムシを使った古代糸作りの経験講習について

カラムシを使った古代糸とストラップ作成 福原さんの記録をもとに再構成しています。
2018 年 7 月 18 日 水曜日 10:00 から 15:00 まちだ結の里クラブハウスにて
講師：東京都埋蔵文化財センター並木さん、小西さん
当方：12 名の参加者、途中からの参加 3 名



カラムシを刈り取る。



葉と枝を取り除き茎だけを使用する、



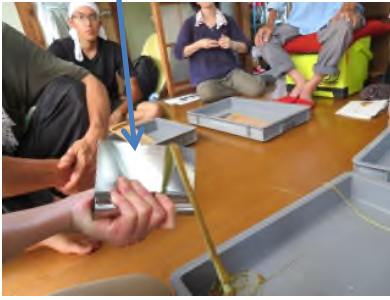
皮を手ではぎます。まずは講師からのお手本。



各自で実施



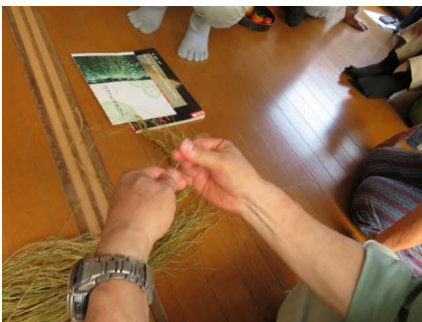
「引きご」を使って外皮を取り除き、靱皮（じんぴ）を取り出します。まずはお手本。



使っている道具はスケッパーカードで代用（パン作りで使う道具）



靱皮を乾燥させます。



大きな繊維を細い繊維に分けます。
強く引っ張ても、切れません。とても丈夫です。



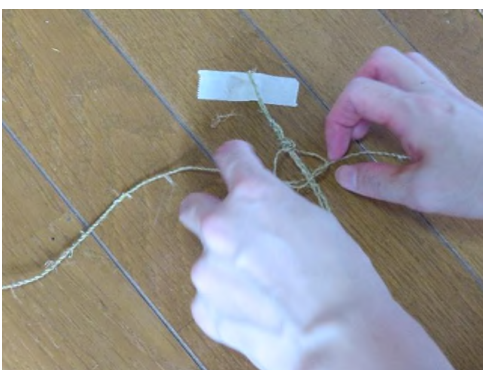
糸を撚っていきます。こちらはペアで作業中。



ひとりでも勿論出来ます。



糸の完成です。1.5m に仕上げます。
ここからストラップ作りに入ります

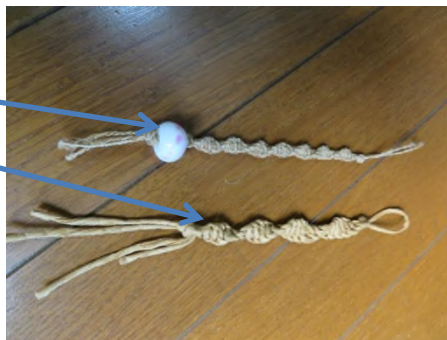


ストラップの完成見本(講師の方が持参)

下は撚糸で織った参考品

イラクサ科の植物 カラムシの別名
苧麻(ちょま)、青苧(あおそ)
などとも呼ばれます。

茎を水につけてから皮をむく方法もある。



24) インタープリターについて

ここでは、田嶋が横浜市のインタープリターの研修に参加した時の資料を参考にして、自然観察会を例にインタープリテーションを行うインタープリターの作業と注意点を説明していきます。

作業の流れとして、計画→広報・募集→下見→実施→まとめ→反省→計画と続いていきます。

計画 何時・何処で(奈良ばい)・誰に・何を・どの様に、下見の時期、募集についてなどを決める。(自然観察会であれば、ここで何を目的にするかを決めておく「生き物を拡大して新しい見方をしてもらう」というような)

広報・募集 まちだ結の里では市の広報を利用しています。この広報に乗せる時期で計画の時期が決まってくる。

下見 観察する地域、募集する対象年齢を考慮しての下見になります。

観察する場所にある植物、昆虫、動物でよく見られる種類、咲いている花など。

地形、その場所が公園なのか、保存地域なのか、一般住宅地、農地なのか。

交通の便、観察の時間が長時間であれば昼食・休憩の場所確認

危険個所の確認(危険個所、スズメバチなどの巣を確認)

作業の流れには記載していませんでしたが**プログラム**を作成しておきます。

(計画時からこの観察会をどの様に進行し、どんな発見をしてもらうかなどを文章にしてストーリー建てをしておきます。)

このプログラムは、実施当日の流れであり、どこで何の説明をするか、インタープリターは何人必要か、下見で判明した必見の場所、危険個所はどう避けるか、などを組み込んでいく。

またインタープリターで共通の確認を行っておく(参加者への説明内容が同じになるようにする)インタープリター1名あたり10名以下が適当でないと田嶋は考えています。

実施 プログラムに従って説明をしていきますが、下見の時と同じであるとは限りません。しかし、予定時間をオーバーは、参加者にとって一番の迷惑、次の予定が狂ってくる。

まとめ これは参加者と一緒にこの観察で何を発見したか、何が楽しかったかなど参加者の声を拾い上げる。場所が無いときなどは、帰り道などでの声をかけで聞いていく、声をかけなくとも話してくれたなら最高です。

反省 これはスタッフで観察会終了後に行います、時期が違ったらどうだろうか、コースは適当だったか、コースを変えたら何ができるか、参加者のまとめの時の意見も参考にする。
そして次回の企画をする。

注意事項を列举しておきます。

① 発見とは、珍しいもの、貴重なものを見せて発見ではなく、拡大してみている、見る場所を変えてみる、どんな場所に有って、何処に無いか、他の人はどの様に見ているか、というようなことです。

② インタープリターは何でも知っていなければならない？

事前に下見をしています、そこで予備知識は手に入れます。

参加者からの質問で種名を聞かれるでしょうが、すべてを知っている必要はありません。

詳しい人がいたらその人に聞いて構いません。

(その種名を知りたいという興味・発見をしている。(いつも見ているところに知らないモノが)出来ればその日のうちに判明すると良いのですが。)

③ 説明する時、対象の物を手にとって説明したいのですが、採取は必要最小限にする、できるだけ自然のままで見てもらう。

④ 危険は回避するだけでなく、その箇所で何が危険なのか、どうすれば避けられるかの説明などに利用できる。

⑤ NG ワード

ご存知の通り (誰もが同じことを知っているわけではない。)

専門用語を使つての説明 (専門家の集まりではない。)

⑥ 過ぎたるは及ばざるがごとし

時間オーバーは参加者に迷惑なだけ、事故のもと、ただ反省あるのみ。

おすすめ、奈良ばいのトコロジストになりませんか

トコロジストとは、特定の分野にとらわれず、その場所(トコロ)の専門家を示す造語。

(大磯の照ヶ崎海岸を中心に活動する自然観察グループ「こまたん」の田端裕さんが提唱し、

平塚市博物館元館長の故・浜口哲一さんが普及したそうです。)

その基本スキルは、①頭の中に地図が有る、②目をつぶっても歩ける(たとえ)、③その場所のいろいろ

な顔を知っている（雨、雪…）④“愛”がある、という事だそうです。

個人である必要性はないそうで、グループでまとまってのトコロジストもあるようです。

以下の資料は参考までに記載します。

インタープリター【interpreter】は、標準的な和訳は、通訳者や解説者となっています。

大辞林第三版の解説では

① 通訳者。説明者。

② コンピューターで、高水準プログラム言語で記述されたソースプログラムを直接解釈して実行するためのプログラム。会話的にプログラムを開発できるが、プログラムの実行は遅い。

③ 自然観察や自然体験などを通じ、自然や歴史について解説する人。自然解説者。自然ガイド。

以上かなり広い範囲でつかみどころがありません。

インタープリテーションを行っている団体は多数あるのですが、①(株)自然教育研究センター、②13歳のハローワーク ③一般社団法人 日本インタープリテーション協会 ④公益財団法人キープ協会での定義を下記に記載します。

①(株)自然教育研究センター

・インタープリテーションとは

自然に詳しくればインタープリテーション（自然解説）はできるのでしょうか。

「自然解説」というと、「自然に詳しい人がそうでない人に教えてあげる」、といったイメージかもしれませんが、インタープリテーションはだいぶ違います。インタープリターには参加者を楽しませたり、参加者の主体性を引き出したり、プログラムを効果的にデザインしたりといった能力が求められます。インタープリテーションは教育であり、同時にエンターテイメントでもあります。実に創造的で工夫しがいのある分野なのです。

『インタープリテーションは一種の技（art）である。そしてそれは、取り扱う題材が科学的であれ、歴史的であれ、数々の技をあわせたものである。どのような技もある程度は教えることができる（フリーマン・チルデン）』

『インタープリテーションとは、単純に情報や気持ちを伝えるのではなく、直接、体験や教材を通して事物や事象の背後にある意味や関係を明らかにすることを目的とした教育活動（フリーマン・ティルデン Freeman Tilden）の事を言うのです。』

・インタープリターとは？

インタープリターとは、インタープリテーションを行う人の事を指しますが、公的に資格があるものではありません。自分がインタープリターだと思っていれば、だれでもインタープリターになれるのです！多くのインタープリターは自然と人を結びつける解説を行っている人がほとんどですが、その他にも科

学技術の分野や、会社のプレゼンの場でインタープリテーションを活用している人もいます。インタープリテーションの技術や手法さえ知っていれば、様々な分野で活用する事ができるのです。

日本で職業的なインタープリターが誕生したのは1980年ごろだと思われます。当時数えるほどだったインタープリターも、現在では全国の自然公園施をはじめ、民間の自然学校、エコツアーなど様々な場で活躍が聞かれるようになってきました。今後ますます広く人材が求められていくでしょう。

② 13歳のハローワーク

・インタープリター << 編集部の職業解説 >>

自然学校やエコツアーなどで、自然の大切さや素晴らしさを参加者に伝える人。インタープリター(interpreter)とは、通訳者、解説者という意味だが、単に地域に生息する植物や野生動物に詳しいというだけではなく、地域の文化や歴史、さらにはそれらの背後に潜む意味や関係性にいたるまで精通していることが前提。その上で、参加者の興味を引きつけるエンターテイナーとして、話術にたけ、ツアープログラムを演出する力も求められる。世界自然遺産をはじめ、エコロジーに世の中の関心が集まる中、インタープリターの数はまだまだ少なく、やりがいのある仕事として注目度も高い。

③ 一般社団法人 日本インタープリテーション協会

・インタープリテーションとは

「インタープリテーション」。この言葉の意味は、使われるシチュエーションによって大きく異なります。私達が、このサイトで扱う「インタープリテーション」は、自然公園やミュージアム、その他社会教育の現場で行われる、体験や地域性を重視した、楽しくて意義のある教育的なコミュニケーションのこと。

「インタープリテーション」とは？

『フリーマン・ティルデン

「単なる情報の提供でなく直接体験や教材を通し、事物や事象の背後にある意味や関係を明らかにすることを目的とした教育活動」

「解説者の感性を媒介にして情報を提供し、来訪者に今までとは異なった次元を開いてみせること」』

『サム・ハム

「インタープリテーションはシンプルに言えば、コミュニケーションのアプローチである。インタープリテーションの中には、自然科学などの専門的な事柄を、専門外の人たちが理解できるように分かりやすく翻訳して伝えることが含まれているが、同時にそれらを、人々が楽しみ、興味を持てるような方法で行うということも含んでいる。」』

『ハロルド・ウィリアムス

「インタープリター自身が感じている環境の美しさ、複雑さ、多彩さ、相互関係に対する感受性や驚きの感覚を、来訪者が感じるのを手助けすること」』

『小林 毅

「究極のインタープリテーションは何も語らないこと・・・」』

・「インタープリター」とは？

『フリーマン・ティルデン

「自らの感性を媒介にしてメッセージを・・・」』

『ヨーク・エドワード

「人々がそれまで予想だにできなかった新しく魅惑的な世界にたやすく導く人」』

『ハロルド・ウィリアムス

「自分の感受性を表現し、他の人にうまく伝える能力が必要」』

『米国国立公園のインタープリターはよく言う・・・

「私たちはクレイジー・・・」』

④公益財団法人キープ協会

Kiyosato Educational Experiment Project（清里教育実験計画）の頭文字だそうです。

創設者ポール・ラッシュ

この協会が運営する施設には、清泉寮があり、よく知られていると思います。

・インタープリテーションとは

「単なる情報の提供ではなく、直接体験や教材を通し、事物や事象の背後にある意味や関係を明らかにすることを 目的とした教育活動」（フリーマン・チルデン：『インタープリテーション入門』より）

以上他にもあるかもしれませんがこの13歳のハローワークを除く3団体がインタープリター養成の講座を行っています。しかし、13歳のハローワークではしっかり職業として認識されているようです。

インタープリターは、公的な資格ではありませんが、自然に詳しいだけではなく、参加者の興味を引きつける話術、突発的出来事への対応、全体構成の企画演出、事前確認、参加者との一体感の創出などの資質が要求される。しかし、インタープリターは、特別な講習を受けた人であるとは限らない。例えば古くから地元に住む長老が長年の経験に基づき、地元の森について様々な角度から語り、その素晴らしさを参加者に伝えられるなら、立派なインタープリターという事ができる。

インタープリテーションとは、1900年代の初めからアメリカの国立公園で取り組みが始まり、最も有名な定義として、フリーマン・ティルデンの6つの原則というのが有り以下に記載します。

1、来訪者の個性や経験に関連づけて行われないインタープリテーションは効果が期待できない。

2、情報伝達それ自体はインタープリテーションではない。

インタープリテーションは、情報をもとにして新しい世界を開いて見せることである。

情報伝達とインタープリテーションは異なるものである。しかし、すべてのインタープリテーションは情報を含んでいる。

- 3、インタープリテーションは、素材が科学、歴史、建築、その他何の分野であれ、いろいろな技を組み合わせた総合芸術である。それらは、ある程度は人に教えることができる。
- 4、インタープリテーションの主目的は教えることではなく、興味を刺激し啓発することである。
- 5、インタープリテーションは、部分でなく全体像を示すようにするべきである。そして人のある一面に対してではなく、まるごとの人間に語りかけるべきである。
- 6、子供向けのインタープリテーションは大人用をやさしくしたものではなく、根本的に異なる方法が考えられなければならない。最大の効果を上げるには別のプログラムが必要になる。

この原則は 1957 年『インタープリテーション』に著され今でも世界中で参照され続けている。

と資料を列挙してきましたが私の受講した養成講座ではこのような 6 原則は学びませんでした。

以上

田嶋